

第1回定例会 一般質問に5名が登壇

議員本人が要約して掲載しています

Q 地域公共交通の維持は

A 町広報を通じてバス利用の啓発を行っていきます



いえづかまさひと 議員
家塚雅人

家塚議員
全国的な課題となっている運転手不足や燃料費の高騰などの影響を受け、本町においても路線バスの減便が進み、状況は深刻さを増しています。

現状が続けば、町外への通勤・通学、さらには通院といった日常の移動が難しくなり、車を持たない世帯にとっては、生活そのものが成り立たなくなる恐れがあります。この厳しい現状と行政の限界を町民の皆さんと共有し、公共交通の利用

促進に向けて、強いメッセージを町民に発信する考えは。

町長

バスの利用促進に向けて、町全体の意識を高めること、認識を持つことが重要です。

まずは、地域公共交通の現状や問題点などについて、町民と情報共有を図ることが大事であると考えます。

今後、町広報で特集を組むなど、町民にしっかりと届く啓発を行っていきたいと考えています。

議員のコメント

ひとりでも多くの町民の皆さんにバスの利用を望みます。



録画映像



Q 第7期総合計画策定における持続可能なまちづくりの方向性は

A 若者世代の移住促進につなげます



ほし まき 議員
星真希

星議員

将来の人口構造の持続可能性を確保するために町長の考えは。

①今後は現在の人口規模の維持を目指すのか、さらなる人口の増加を目指していくのか。

②年代別人口構成の変化を踏まえ、単身者を含めた若者世代の移住促進の考えは。

③地域コミュニティなど、町民の幸福度を高める観点からの持続可能なまちづくりの考えは。

町長

①創生総合戦略の人口ビジョンを基本に緩やかな人口増を見込み、持続可能なまちづくりを進めます。

②企業誘致による雇用確保、住環境の整備に取組むなど、単身者を含めた若者世代の移住促進につなげます。

③公共交通や医療の維持、教育環境の充実など、魅力あるまちづくりに向けた次期総合計画の素案作りに努めていきます。

議員のコメント

住民の笑顔が広がるまちづくりとなるよう期待します。



録画映像



Q 加齢性難聴者への補聴器購入助成を

A 第10期介護保険事業計画の中で検討します



くまきけいこ 議員 熊木恵子

熊木議員
加齢性難聴でコミュニケーションが図りづらくなり、外出をためらい自宅に引きこもる高齢者や家族からの悩みも聞かれ、誰もが補聴器を買いやすいようにしてほしいという声が各地で広がり、独自の助成を行う自治体が増えていきます。

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健康で自分らしい生活を最期まで送ることができるよう、本町でも補聴器購入助成は必要と思うが町長の考えは。



録画映像



Q 中古住宅購入費助成事業の拡充を

A 制度見直しを検討します

熊木議員

中古住宅購入費助成事業は、町内の中古住宅を購入する方に対し、その費用の一部を助成する制度で、町内での住み替えや、町外からの移住者が増加することは、新たなまちづくりにも有効な取組です。

購入費助成金額を増やし、空き家・空き地情報バンク制度に登録されていない住宅も対象にするなど助成制度の拡充が必要と思うが町長の考えは。

町長

中古住宅の需要が増えており、市街地における流通も多くなっていることから、空き家・空き地情報バンク制度の登録要件を外すなど、制度見直しを検討します。



録画映像



議員のついでに
さらに住みやすい町になってほしい。

中古住宅購入助成事業の主な要件

- ・昭和 56 年 6 月 1 日以降に着工した住宅又は耐震診断結果により建築基準法等の規定に適合している住宅
- ・玄関、便所、台所、浴室、居間及び適正な居住室を有する住宅で購入費用が 50 万円以上
- ・本町空き家空き地バンクに登録されている住宅
- ・購入助成 購入した費用の 20% 又は 25 万円

町政を知る良い機会
議会を傍聴しませんか！
第2回定例会は
6月開催です

議会懇談会 受付中

町内の5名以上の小グループや各種団体等と地域の課題や議会活動、町政に対する意見等を議員が直接伺う「議会懇談会」を行っています。

ぜひ、お申込みください。

【お問合せ】議会事務局 ☎ 398-7250

Q 公共施設女子トイレに生理用品の設置を

A 公共施設への設置を順次進めていきます



録画映像



熊木議員

生理用品は既に小・中学校での女子トイレへの設置は進められています。役場庁舎をはじめ、公共施設の女子トイレにおいても設置が必要と思うが町長の考えは。

町長

女性が抱える身体的・精神的負担を軽減し、公共施設において安心して過ごせる環境を整えるため、公共施設への設置を順次進めていきます。

議員の一言

すみやかに実施されることは喜ばしい。



Q ふるさと物産館ビュウローの機能充実を

A 観光協会との連携を図ります



録画映像



さとうたえこ 議員 佐藤妙子

佐藤議員

ふるさと物産館ビュウローは、平成12年に建設され、現在は、はれっぱの開業により町外から多くの方が訪れており、今後ビュウローが交流拠点として果たす役割は重要であり、これまで以上の誘導策が必要と考えます。

現在は、来館された方が十分に満足できる状況とは言いがたく、ビュウローの機能充実を図るためには、民間ノウハウを活かした施設の一体的な

管理運営を行う指定管理者制度の導入が必要と思うが町長の考えは。

町長

今後においては、まずは観光協会における特産品をはじめとした、品揃えと飲食メニューの充実により、来館者へのサービスの向上を図りたいと考えるところから、現時点で指定管理者制度導入の考えはありません。

議員の一言

今後の観光協会の活動に期待しています。



Q まちの顔となる中央通り沿
いへの誘導は

A 商工会とにぎわいづくりに
向けた協議を進めます



にしまたひろし 議員
西股裕司

西股議員

本町の都市計画マスタープランでは、中央通り沿いをまちの中心軸とし、ふるさと物産館ビュローの利活用を検討し、利便性と中心性の向上を図るとされているが、次の2点について町長の考えは。

- ①空き店舗活用支援事業で出店した店舗等、中心軸への交流人口の誘導効果は。
- ②市街地中心部に多様な人々が集い交流できる空間の形成などの施策は。

町長

①事業を活用して、これまで17事業者が出店するなど飲食店や小売店が増えています。中央通りの店舗には、土日を中心に町内外からの利用が増え始め、交流人口の中心軸への誘導効果は出てきていると感じています。

②はれっぱなどへの来町者をはじめ、多様な人々を中心市街地へ呼び込むには、人の流れをつくることが重要です。

そのためには、商工会とにぎわいづくりに向けた協議を進め、歩行者休憩スペースの確保など、各事業者や関係団体などと連携し取り組みます。

議員のコメント

にぎわいのあるまちづくりを期待します。



録画映像

